平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 047	**提案機関名**	農業技術センター三浦半島地区事務所

要望問題名

緑肥作物の肥効について

要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

三浦半島は冬春のダイコン、キャベツの栽培が主力であり、夏場は休耕するほ場が見られることから、夏場の空き畑対策が重要の課題である。

雑草抑制や土壌及び硝酸性窒素の流亡対策として、従来からエン麦やギニアグラスなどの作付けが行われているが、緑肥として次作への養分供給を行う観点からマメ科作物の利用が注目されている。マメ科作物を緑肥として使用した場合の養分の溶出パターンなどを明らかにし、利用促進の一助とすることを希望します。

解決希望年限	①1年以内　[②2～3年以内]　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	[①農業技術センター]　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター

備　考

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	三浦半島地区事務所

対応区分	①実施　[②実施中]　③継続検討　④実施済　[⑤調査指導対応]　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名 （①、②、④の場合）

夏作での緑肥導入による溶脱軽減効果の確認

対応の内容等

ご指摘のとおり、夏場の空畑が増えており、表土の風食や硝酸性窒素溶脱の対策は重要な課題と考えております。当所では平成 22 年度から、緑肥による硝酸性窒素溶脱軽減効果や次作への養分供給力等について検討しております。作目は、現地に広く普及しているエンバクを主要な研究対象としておりますが、得られた知見は他の緑肥についても参考になるものと考えております。なお、マメ科作物の窒素固定能も重要であり、過去の知見等もありますので、当該試験結果を含め情報提供して参りたいと思います。

解決予定年限	①1年以内　[②2～3年以内]　③4～5年以内　④5～10年以内

備　考